

翠風園 ひかり通信

第7号



発行月： 平成23年7月

制作・発行： 社会福祉法人 正瑛会

デイサービスセンター翠風園

ヘルパーステーション翠風園

グループホーム 翠風園

理事長 野水 清志

所在地： 〒950-1236

新潟市南区高井東2丁目13番33号

連絡先： 025-362-7600

ホームページ：<http://www.suifuuen.jp/>



表紙の絵は、ヘルパー御利用者の長井様の作品です

ご挨拶

デイサービスセンター

厨房職員

西村 香里



新緑の青田にさわやかな風が吹く頃となりました。デイサービスセンター翠風園は、開設してまもなく九年を迎えようとしております。私は開設当初より調理員として、白根の豊かな大地で育まれた食材を手に取り調理出来る事に感謝し、利用者様から満足して戴ける食事提供を、常に心がけて参りました。「おいしかった!」と笑顔で言って戴ける事が、私の日々の力になっております。

私はデイサービスセンター翠風園に勤めて間もなく、実父が他界しました。当時新潟市出身の作家 新井満さんの「千の風になって」が爆発的ヒットの年でした。その詩にあるように、大切な人を亡くした時、人は深い悲しみに陥ります。そんな中、私は翠風園の温かい空間と利用者様の白根の地を愛する御姿と笑顔に触れる事で、心が癒されました。翠風園では、良い事も悪い事も、自分にとって人として成長する糧であると学びました。人からどう思われるか、どう思われたいかという評価を気にするのではなく、その問題に対して自分がどうあれば良かったかを、振り返って考える機会を戴いています。

私には思春期である子供がおります。翠風園で教わったこの考え方を元に、子供達には自身に起こる困難や失敗をマイナスと捉えず、経験したからこそ気付けるという過程が大切である事、そして関わって下さった周りの人達へ感謝する心を持てるよう強く願い、家庭でもそれを伝え、一つ一つ身につけてくれればと思います。

私は、翠風園のシンボルマークにもあります「大地」「空」「地球」「桜」「風」「緑」人も物も共存し、形ある物にとらわれず、全てにおいて優しさと愛情を注ぐ考え方に触れ、私自身がそれを身につけ、少しずつでも成長しながら、子供達にもその姿を見せていきたいと思っています。

私を育てて下さる皆様に感謝御礼を申し上げると共に、これからも日々利用者様のため、更に地域の皆様のお力になれるよう、努力していきたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。

デイサービスセンター

デイサービスセンターをご利用されている高橋様の詩を、ご紹介させていただきます。

九十九歳の詩人、柴田トヨさんの詩集「くじけないで」が翠風園に置いてあります。その本を高橋様の前で職員が読んでいました。すると、「こんな風に詩を考えてみたけれども、字は書かんねし・・・」と高橋様が仰いました。

その言葉を聴いた職員が「高橋さん、是非考えて戴けませんか？ 私が聴いて書きます！」と言うと直ぐに、詩の言葉を言われ始めました。

直ぐに言っ下さると思っていなかった職員は、慌てて周りに置いてある紙とペンを取り、高橋様の想いを聞き取り始めました。出てくるお言葉一つ一つに、深い感謝の想いと高橋様の叡智が詰まっており、お考えの素晴らしさに感動致しました。

早速、お聴きした言葉と想いを職員が分かり易くなる様に構成し、詩は完成しました。

その日を切っ掛けに、作品作りが始まり、今では六つの詩が出来上がりました。あまりに素晴らしい内容に、大勢の職員から絶賛の声が上がっています。愛読者は、日に日に増え、「次の作品はいつ出来るかな」と心待ちにしております。

今回は「翠風園」と「地球様」という、二つの詩をご紹介させていただきます。



新作を考案中
です

翠風園

翠風園に来る日は 元気を出しています
ああ、今日も翠風園に行けるかな
お迎えの車が来ると おはようございますと
声が聞こえてきました

園に着くと

お客を迎える様に

ご苦労様 有り難うございますと

くつを履かせてもろたり

テーブルまで招いてもろたり

お茶から手拭きから さっさと出てきます

ここに來てから長くなりますが

こういう所じゃなかったら

私は生かさせてもらえなかったと

この時思います

痛い足腰も 少しずつ静まる気持ちになります

何でこんな力があるのだろう

それは皆さんの柔らかく迎えてくださる

大切な心掛けなんだと

地球様

今までは習わなかったから 分からなかった
地球様は大事だと

考えてみれば 一にも二にも有り難い

人間に生まれ 翠風園に来て
初めて大切さを教えてもらった

その有り難さを考えながら 手を合わせます

その有り難さは特別でございます

真の感謝の言葉は

手を合わせる事によって表せます

それを行う事で

人間が少しずつ変わるように感じています

それで漸く 人間の子になれます

皆さんも一緒に 朝起きたら

今日も有り難いと 手を合わせましょう

地球様の有り難さが 分かります



グループホーム
からのお客様



体操の前に詩を
朗読しています

平成二十年の七月行事では「地球様への感謝祭」を執り行いました。

「お日様、お月様、お星様と言うけれど、一番お世話になり、自然の恵みを戴いている星、地球には様を付けていなかった」という事で翠風園では地球様とお呼びし、利用者様と一緒に職員も感謝の想いを文章にして発表をする行事を行いました。

その行事以降、高橋様は夜寝る前、朝起きた後、地球様へ感謝の想いを送る様になったとお話し下さいました。「今迄、ご先祖様には感謝をしていたけど、地球様に感謝なんて思い付けなかった。良い事を教えてもらったからには、させてもらわんと」と、自ら率先して実行されるお姿に、頭が下がります。そして、その想いを詩にされた「地球様」をデイサービスセンターでは、午後のレクリエーション前に朗読し、皆様と感謝を送っています。又、高橋様の詩は、隣に在るグループホームにまで広がりました。グループホームの二人の入居者様がこの詩を読まれて「是非、考えた方とお会いしたい!」というお気持ちになられ、デイサービスセンターまで高橋様に会いに足を運んで下さる様になりました。高橋様の詩を通じて、デイサービスセンターとグループホームの間がぐっと近付いた事を、嬉しく思っています。

今回、高橋様との詩の作成を通じて、今迄は利用者様の手となり、足となって身体的なお手伝いをさせて戴く事ばかりでしたが、利用者様のお気持ちを作品にするという、心のお手伝い出来る事とても嬉しく感じました。

新たな介護を見付けた様な気持ちになり、これからは体の介護だけではなく、心の介護も目指して行きたいと思っています。

ヘルパー ステーション



〈編集部より〉

今回、ひかり通信第七号を作成するにあたり、ヘルパーの皆さんから御利用者の長井様の事をお聴きしました。「長井様の塗り絵の作品は本当に色使いが素晴らしいんです。一目見れば誰でも分かります。長井様には、個展を開けたらいいですね」とお話ししている位です。もし、今回このひかり通信を通じて、大勢の方に作品を見て戴く事が出来たら私達も嬉しいし、長井様もどんなに喜ばれるか…。是非、長井様のお人柄と作品を、紹介して下さい！」と熱く語って下さいました。

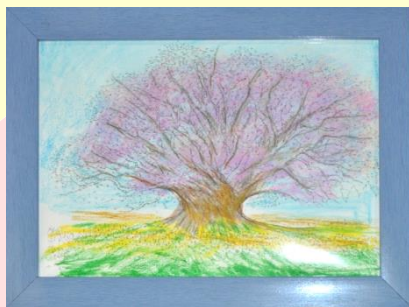
そこでこの度、長井様に了承を戴きまして、ご自宅に伺った時のお話と、作品をご紹介させて頂きます。

長井様は、二年ほど前から翠風園のヘルパーをご利用下さっている、九十代の男性の利用者様です。数年前、ご病気で片足を切断され、現在はベッド上での生活を送られています。翠風園のヘルパーは週に二回の訪問ですが、長井様はいつも手を挙げ、輝く笑顔で迎えて下さいます。

長井様が塗り絵を始められたのは、ある時、息子様が「色でも塗ってみないか」と一枚の白根の凧の絵を持って来られた事が切っ掛けだったそうです。若い頃から俳句や絵などの趣味をお持ちだったそうですが、ご病気になってからは遠ざかっていたとの事でした。

その後、ヘルパーが訪問する度に、一枚、また一枚と新しい塗り絵が出来ていて、「長井さん、上手ですね」「わー、この色合いは素敵ですね」と、感激しながら感想をお話ししていたそうです。そして、「家族も生き生きしている長井様のご様子を大変喜ばれ、塗り絵を額に入れたり、お部屋いっぱい飾る様になったそうです。

素敵な作品さん達



長井様は次の様に話して下さいました。「戦時中にお世話になった教官から、常に前向きに生きろと言われてきたが、そのお言葉の蔭で今の自分がいる。失くした足は戻って来ないが、くよくよジメジメするより、常に前を向いて生きることが心掛けてきた。

身体が不自由になって、妻や、家族、ヘルパーさん達によくしてもらって、本当に有り難く幸せだ。ヘルパーさんは嫌な顔一つ見せず世話して下さい。自分の塗り絵を見るのが楽しみだと言って下さるヘルパーさんもいる…。

ヘルパーさんの中にはね、作品に俳句をつけたらどうかと言って下さった人がいて、きつと絵心があるんだね。関心を持ってもらって嬉しいよ。家族は作品をせっせと部屋に飾ってくれたり、時々は額の絵を入れ替えてくれる…。本当に幸せだ。

塗り絵は楽しいよ。時間も忘れてしまう。同じ絵柄を塗る時もあるけれど、その時の自分の心の在り方や、周りの季節によっても塗る色が変わる。未だに自分の思う色が出せないが、だからこそ続けられる。へこの色とこの色が合わされば、こうなるかな?と考えたりするのが、また楽しい。

これまでも、自分がへこれで良いと思うまで何でも続けてきた。だから、塗り絵はまだまだ…」

私は、今回初めて作品を見せて戴きましたが、部屋に一步入ると、まるで長井様の作品展に伺った様な気持ちで、胸躍りました。長井様の温かい笑顔と、暖かい色使いの沢山の作品達が「よく来たね…」と、大歓迎して下さいた様でとても嬉しかったです。

長井様の前向きなお姿や、楽しみながら向上を目指されるお姿に、私も少しでも近づける様になりたいと思いました。尊いお話を聴かせて戴き、有り難うございました。

グループホーム



『萌木会ノート』

グループホーム計画作成担当者 浅間 容子

グループホーム翠風園の萌木ユニットでは、平成二十二年からその日の出来事を記録し、入居者様の要望・意見を伺い、自分の気持ちを表現して戴きたいと思い、「萌木会」というノートを用意し、自由に記録して戴く事にしました。

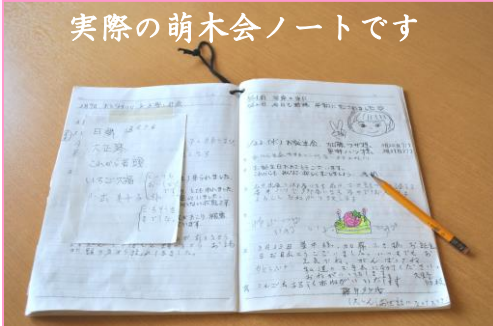
昨年十一月に研修で訪問した或るグループホームでは、入居者様の自立、自分達の暮らしを作っていく為にはどうしたらいいかと、真剣に取り組まれていました。萌木でも出来ることの一步として、ノートを作成しました。

そこで今回は、いつも熱心に書いて下さっているA様の内容をご紹介させて頂きます。A様は入居当初より、職員一人ひとりを「先生」と呼んで下さり、職員一同恐縮しています。



職員の浅間さんと入居者のA様が萌木会ノートを囲んで、楽しめている素敵な一コマです！

実際の萌木会ノートです



・一月二十八日（金）

（職員記入）今日はとても冷えて、ツルツルに凍りました。

（A様）午後一時半頃、ゴミ出しに出かけた時です。

午後一時半頃、ゴミを三人でゴミを持って歩いて出かけた所、ゴミ捨て場所に來た所、藤倉先生がすってんころりんと転んでしまわれました。

長い足を頭の上にグッと上げ、とても可哀そうでした。私が代わってやればよかったなあ・・・と思っています。

一番大事な藤倉先生、申し訳ございませんでした。

今度からは、ゴミ出しは私がゴミを持って行く事にします。お大事にして下さいね。

*A様は今も積極的にゴミ出しを手伝って下さり、この出来事を思い出しては、職員の藤倉さんが転ばない様にと、腕を組んで下さるそうです・・・。

・ 四月十七日（日）

（職員記入） A様、お誕生日おめでとございます。

（A様）色々お祝いのケーキや素晴らしいお言葉を、先生方からいただきました。なんとお礼を申し上げたら良いかわかりません。なみだがでて仕方がありませんでした。本当にありがとうございます。大変ご迷惑をおかけ致しました。かんべんして下さいね。ありがとうございます。

樋口先生や小林令子先生からも、時々おいしいごちそうを作っていたりお礼をしまして、ありがとうございます。この間ビーフカレーという、とってもおいしいごちそうを作っていたら、とってもおいしかったです。

お料理上手な先生。藤倉先生、今日もおいしいおやつをいただきました。かきねがさねありがとうございます。とってもおいしくて一人でするのが、もったいないなあと思いがちです。



A様を始め入居者様達と、職員の藤倉さんと、楽しいティータイムのひとつです！



母の日には、お花が大好きなA様に、ご家族からカーネーションが届きました！

以上のように、書ける方は自由に書いて戴いています。全員の方からも名前を書いて戴き、その時点でのその方の表現できる力で記録として残っています。認知症の方は、短期記憶を留めておく事が難しくなっている方が多いです。一緒に生活されている中で、楽しかった事、嬉しかった事、悲しかった事、その時にあった出来事を覚えて入居者様が記録し、他の入居者様もノートを読む事で思い出したり、確認されています。

萌木の入居者様は女性が多い為か、とても話し好きです。毎日お茶を頂きながら、現在・過去・未来・想い出を語り合っているが、感謝の気持ちを現しています。長い人生での数々の苦勞であったり、親や子への尊い感謝の気持ちを伺い、少しでもノートに表現して戴く事で、記録に残して行きたいと思っています。入居者様の要望には、職員一同で協力し合い、実現して行きたいと思っています。

職員紹介

働ける喜びに
溢れています

デイサービス 笠井紀子



デイサービスで働かせて戴いて二年目に入りました。私は今年の三月、四月と「腰椎椎間板ヘルニア」で手術をし五月より復帰しました。病気をした事で、家族、会社の先輩方、知人の方々の温かな想いを知る事ができ、感謝の気持ちが高まりました。

また、利用者様のお気持ちや痛みを自分に置き換えて、お手伝いできるのではないかと思ひながら、復帰させて戴きました。日々の出来事がより深く考えられるようになり、利用者様が安心して過ごせる毎日を目指し、素敵なお手伝いをして戴きたいと思っています。

注意深く観察し、
細やかな心遣いを忘れません

ヘルパーステーション 星あゆみ

身体介護、生活援助と利用者様宅へ訪問させて戴いていますが、歴史を重ねて来られた方々の知恵に勝るものはなく、私にとって人生勉強になる事ばかりです。体・心の変化に気を配り、皆様の笑顔が見れるように、信頼関係も築いて行きたいと思っています。

ご自宅で穏やかに過ごして行けるよう、臨機応変にお手伝いして行きたいと思っています。



気持ちを察して
素早く行動します

グループホーム 萌木 樋口まき子

私は初め、ヘルパーステーションにいましたが、現在はグループホームに勤務しております。

グループホームの入居者様の中には、以前ヘルパーを利用されていた方もいらつしやう、お一人おひとりにとても深いご縁を感じながら、働かせて戴いております。

毎日、皆様からの慈しみに溢れた優しさを受け、和やかで穏やかな笑顔、温かく明るい言葉でお手伝いできる様に、心したいと思います。

